

しちなし

社会福祉法人くちなし
セルプ・ガーデンハウス
 障害者支援施設
 障害福祉サービス事業所
 〒267-0057 千葉県緑区大木戸町1423-3
 TEL 043-295-7401(代)
 FAX 043-295-7406
 発行人 小林 正継
 編集 広報委員会

「感謝の気持ちを忘れずに 気づく心・感じる心を大切に…」

能登半島地震への支援



元日に発生した能登半島地震は、6カ月以上が経過した現在も未だにライフラインの復旧ができない地域や避難所での生活を送っている人達がいまいます。

社会福祉法人くちなしとしても、これまで被災地や被災された方達に対して少しでも支援を行えるよう取組んできました。

よく災害時の支援に必要なものは「人・物・金」といわれます。社会福祉法人くちなしは1月中旬に職員と利用者への義援金募集を呼びかけ、実施をしました。そしてその話



志賀町内避難所でDWA Tチームへの聞き取り

を聞いたファミリー会からも募金協力をした旨のお話しをいただき、集まった合計126,590円を日本赤十字を通して義援金として送りました。

そして現地での人的支援としても職員を派遣しています。まず1月21日、千葉県DWA T(災害福祉支援チーム)として、小林正継入所施設長が派遣されました。令和2年

度、その第1班リーダーとしての派遣となりました。現地ではまだ混乱が続いていた



小学校避難所での運営会議の様子

厚生労働省・子ども家庭庁より、被災地の社会福祉施設等に対する介護職員等の派遣依頼があり、災害福祉支援ネットワークを活用し、社会福祉施設間での介護職員等のマッチング・派遣等の協力依頼がありました。全職員の中から、3名の職員が被災地派遣に手を挙げました。

先に、DWA Tとして被災地にいち早く向かった小林施設長も含め、現在まで3

ため、石川県庁でのDWA T本部機能の構築作業や、金沢市にある1,5次避難所と七尾市内や志賀町内での各避難所で活動している13府県のDWA Tチームの巡回の役割を担い、そして巡回活動中に要請があがった七尾市内の小学校避難所での支援活動に入つて5日間の活動を終え、第2班へ引継ぎました。

今回の災害では、被災し

セルプから職員派遣

た社会福祉施設への「現場職員応援派遣」も実施されています。社会福祉施設は被災しても入所者が他の避難所に移動・生活することは難しいため、被災したまま入所者への対応を続けたり、さらには地域の要配慮者を受入れたりにしています。しかしそこで働く職員は自宅が被災したことで避難生活を余儀なくされ、退職者も少なくない状況です。そのような施設に対する支援活動として、入所施設から2名の職員を派遣しています。(詳細は次頁)

厚生労働省・子ども家庭

庁より、被災地の社会福祉

施設等に対する介護職員等

の派遣依頼があり、災害福

祉支援ネットワークを活用

し、社会福祉施設間での介

護職員等のマッチング・派

遣等の協力依頼がありました。

全職員の中から、3名

の職員が被災地派遣に手

挙げました。

先に、DWA Tとして被災

地にいち早く向かった小林

施設長も含め、現在まで3

名の職員を派遣しています。

1月：小林施設長(DWA T)

5月：高見洋一(生活支援

員) ※5月末退職

〔派遣先〕

石川県鳳珠郡能登町

障害者支援施設

「日本海倶楽部」

〔活動内容〕

入浴介助(2時間で30

人)・調理(調理師免許所

持の為)

1面から続く

〔感想〕電気・水道は復旧済みで宿泊はトレーラーハウスに2人で宿泊しました。施設内に動物園や就労施設でワイナリーがあり落ち着いた環境でした。体力に自信はありましたが、睡眠不足に陥りきつかったです。まだまだ、人も足りず、地元の人達も立ち直れていない状況下で必死に生きている感じでした。

6月：久世貢(生活支援員)

〔派遣先〕

石川県輪島市釜屋谷町
地域生活支援「ウミユードウソラ」

〔活動内容〕

いろいろな地域から避難された方々の避難所内にて、高齢者(認知症の方含む)・障害者の方への日中支援。8月末までの避難所になる予定。

〔感想〕施設内は、ライフライン復旧していましたが、宿泊所は、電気のみ復旧、水道は復旧なくトイレは簡易トイレ、入浴は宿泊所から徒歩で別の施設にて入浴していました。

輪島市内は、建物も倒壊したままで、地震直後のまま手つかずになっている所がほとんどでした。派遣中、震度5弱の地震もあり、安心して生活できる環境には程遠い現状です。人口流出も止ま

らず、復興後の心配も尽きないと地元の方々も心配してしました。8月以降の仮設住宅入居が始まり、一日でも早く元の生活が送れるように願うばかりです。現地に赴いて、報道されていない現地現状を目の当たりにして、驚きを隠せませんでした。

派遣された職員以外の施設に残った職員もその人達の穴を埋め、入所通所の利用者さんは募金という形でセルプ一丸となって被災地支援を行っています。

被災され必死に生きておられる方々が少しでも早く、当たり前の日常を送られる日々が訪れることを心よりお祈り申し上げます。



避難されている方との1コマ

新しい試み！ 個別希望旅行へ

今年度からセルプ・ガーデンハウスでは、毎年秋に行っている日帰り旅行を見直して、個別希望旅行を実施するという新しい取り組みを始めました。

今までは利用者の皆さんから希望があった場所や、職員の提案した中から数か所の旅行先を選び、どこへ行くか利用者さんを選んでもらっていました。今年度からは利用者さん1人1人に希望を聞いて、それぞれの「行きたい場所・やりたいこと」の希望に応えるべく計画し、1年かけて個人に合わせた外出を実施することにしました。利用者さんの多くの方の生活は選択肢が少ない状況です。その人らしく生きるために自己選択や自

己決定の機会を増やし、より充実した生活をおくれるよう支援していきたいと思えます。

まずは1人目の利用者さんが千葉公園のハスを見て、サンドプラスト体験をしました。リニューアルオープンした千葉公園は池までの道路が車椅子でも通りやすく舗装され、トイレもとても綺麗で使いやすくなっています。6月中旬から7月初旬が見頃の大賀ハスは、たくさんの大輪の花を咲かせており、大満足でした。サンドプラスト体験では、ガラスに砂を吹き付け、模様や絵をつけてオリジナルの器を作りました。利用者さんから「みんなでも来てもいいかもしれない、この綺麗なハスを見せたい」「クラフトクラブのみんなも出来そう」と自分が楽しんでいただけなく、仲間たちを思う優しい気持ちがかがえ、とても温かい気持ちになりました。



大賀ハスの前で



サンドプラスト体験

ファミリー会からの支援で 利用者さんの生活が充実

昨年ファミリー会からのクリスマスプレゼントとして購入させて頂いたペットロボット犬「ダッキー」は、利用者さんへの癒しの効果もあり、大好評です。ダッキーは触るとおしゃべりが出来て利用者さんからは、本物の犬のように日々愛されています。愛されているがゆえに、ダッキーと同じ時間を過ごしたいとの

思いが強い方々も多く、時にはダッキーを巡って言い争いになることもありましたが、その為、この春から入所には追加でダッキーの仲間の猫ロボット「みいみい」、同じ犬でも犬種が違う「ココ」と2匹のペットが家族の仲間入りになり、さらに賑わう形になっています。通所には「ココ」と同じ犬種の「なごみ」が仲間入りしました。先月、利用者さんの手作りによるペットハウスも常設され、ペットの周りでは笑顔も溢れ、楽しい日常生活になっていることと思えます。

同じく昨年度末にファミリー



ペットたちのお家も作りました！



お掃除中

ー会から寄与頂いたお掃除ロボットTapoは、作業棟で通所利用者さんが帰った後に毎日活躍しています。生活棟では入所利用者さんの生活に不都合がないよう、使用時間を検討し、より活躍できるように調整しています。

また5月より、ファミリー会のご意向で日曜日の家族による「見守り支援」が開始されました。家族が用意してくれたゲームや遊び用具などを利用したレクリエーション、あとは職員とはまた違ったお話しなどもす

ることができ、終わった利用者さんとはとても楽しかったと笑顔で過ごすことができています。いつも多大なご支援を本当にありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願い致します。

日常の楽しみ

利用者さんが日常の中でささいな気分転換や楽しい時間になるような取り組みをしています。

その一つは、職員と1対1で関わられる個別プログラムです。以前は入所利用者さん全員を対象として、職員と個別にそれぞれに合ったストレッチや歩行訓練を目的に行ったり、足浴や手浴の身体ケア、レク等をする時間としていましたが、現在はPTとの訓練もあるため、個別プログラムは希望者のみでその方の希望に沿った内容を実施しています。30分職員と様々なお

話をする時間を希望する方や、散歩やオセロを希望する方もいて、人それぞれの時間の過ごし方となります。

日課の無い休日にも希望者は日曜レクとしてゲームや、動画鑑賞をします。一番人気は毎月1回あるお菓子レクです。費用は自分で負担してもらい、コンビニスイーツや菓子店のデザートの中から選択する形にしてい



レクリエーション(輪投げ)



TVゲーム(Wii)

るので、「今度のお菓子レク〇〇にしたよ」と嬉しそうに教えてくれる方もいます。そして外出行事として、コロナ禍で中止していた近隣の商業施設への買い物外出が再開しました。利用者さん2〜3名での外出です。自分1人では外出が難しい方もいるので、職員と実際に足を運んで自分の目で見て洋服やお菓子を買えるこの時間が楽しみでもあり、良い気分転換にもなっています。

一般教養講座

和食の良さを再発見!

令和6年1月16日(火)『世界に認められた和食文化』という題材で一般教養講座を開催しました。食という関心を集めやすい内容でもあり、入所・通所が揃ったの参加となりました。

内容は昨今、世界で起こっている空前の日本食ブームについて学び、日本人として和食文化に誇りを感じて貰うと共に、
 (1)多様な新鮮な食材とその持ち味の尊重
 (2)健康的な食生活を支える栄養バランス
 (3)自然の美しさや季節の移ろいの表現
 (4)正月などの年中行事との密接な関わり
 といった美味しいだけではない和食の特長を理解して、普段の食生活に活かして貰うという



ものでした。和食文化についての解説日本食を目前に來日する外国人観光客の様子などを動画で観たり、外国人に人気の日本料理を当てるクイズをしたりと、皆で楽しみながら学べるひとときになりました。

ボッチャを通じてスポーツへの関心を広げる!

スポーツ大会への参加!

5月15日(水)は「千葉市身体障害者スポーツ大会」が行われました。セルプ・ガーデンハウスからは昨年よりも多い入所・通所合わせて13名の希望者が参加しました。参加にあたって入所通所ともに3月末くらいから大会への準備と

いうことで競技のルール説明であったり、準備体操、実際にボールを使用する実践などをしました。当日の大会は、主に車椅子を利用して競技を行う方、立位で競技をする方の2か所に分かれてそれぞれ、障害程度に合わせて競技を行いました。昨年、千葉市の補助金を利用してボッチャのランプ(勾配補助器具)を購入し、車椅子を利用して実際にボールを投げるのが難しい方も参加が容易になり、入所で2名の利用者さんがボッチャランプを使用しての参加をしています。普段、日課やレクなどでスポーツを行う際に競技としての参加が難しい方であっても今回のボッチャ大会に関してはランプの購入によって競技への参加のハードル

が下がり、参加しやすくなりました。

また今年初参加し、今まで施設内の簡単なルールでしか体験していなかった方に話を聞くと「実際にルールを覚えて参加すると奥が深いね」とさらに興味関心が湧いたという声も聞きます。

施設での認知も深まってきたので来年以降は成績などにもこだわり戦術も少しずつ取り入れて大会に臨んでいきたいと思えます。



FDの素晴のダンス

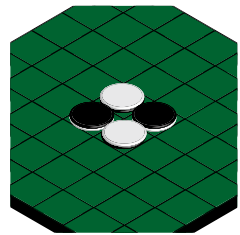
6月8日(日)に千葉市民会館で「母の日コンサート」が行われ、手話サークル「FLD」が出演しました。母の日コンサートはコロナ禍だったので5年ぶりの開催となりました。待ちに待った出演となりました。FLDの練習は月に2回行われ、いつも以上に熱が入っていました。発表曲は「まほうのことば」と「みんながみんな英雄」です。当日はお揃いのユニホームを着て少し緊張気味の利用者さん達でしたが、



いざステージに上がれば堂々として表情もイキイキしており、手話ダンスを体全体で表現している姿が感動的でした。観ているお客様たちからも盛大な拍手や拍手をいただき、発表は大成功となりました。出演後は旧友との再会があった利用者さんもいて大喜びでした。ぜひ、来年もご招待していただけると嬉しいです。

祝 オセロ大会 団体戦Ⅱ部 初優勝!

6月18日(火)かずさアカデミアホールにて「第54回県身協オセロ大会」が5年ぶりに開催され、県内20施設70名以上の施設利用者さんが参加しました。



あいにくの天気にも関わらず会場内は参加者のはやる気持ちとドキドキであふれ返っていました。そんな中、団体戦に参加したメンバーたちは、あれよあれよという間に勝ち上がり、何と何と見事に優勝いたしました。しっかりと穏やかに笑顔で勝利を噛み締めるメンバーと、よろこびのあまり大興奮の同行メンバー、職員たちでした。参加メンバーたちは「とにかくうれしい」「練習の時よりうまくいった」「来年はⅠ部での出場になるので頑張りたい」と話しています。Ⅱ部優勝を果たしたセルプ・ガーデンハウスは次回大会で団体戦Ⅰ部に昇格することが決まりました。



四季の移り変わりを感じて

セルプ・ガーデンハウスでは季節に合わせた行事や行事食、施設内の様々な所に装飾を行っています。看護室の入り口の掲示板にも季節の手作り装飾が彩られていて、心がほっと和みます。

2月2日には入所・通所合同で節分会が行われました。毎年、年男と年女が豆まきをしますが、今年から当たっても痛くないボールを購入しました。豆まき後に鬼が登場し、利用者さん皆で豆まきのボールで鬼を退治しました。レクではハイパー玉入れが行われ、クイズが出題された後にブルーシートの真ん中の穴にピンポン玉を早く入れたチームが回答できます。利用者さん、職員とも真剣な表情で玉が入ると歓声が上がりました。昼食は節分でおなじみ恵方巻を食べ、願い事をしながらまるかじりをしました。

4月にはお花見ドライブに行き、満開の桜を車から眺めて「綺麗だね」と皆で楽しみました。

日本には四季折々の楽しみや趣があります。これからも利用者さん達と一緒に季節を感じながら、素敵なひと時を過ごしていきたいと思えます。



通所の取り組み

通所利用時間変更・リハビリの実施・入浴サービスの再開・ショートステイ利用



4月から通所の利用時間が1時間延長し16時30分まで活動することが出来るようになりました。時間が増えたことで新しいレクリエーション活動や、理学療法士と生活支援員による小グループでのリハビリ等、新しい取り組みも始めました。リハビリではストレッチポールやバランスボールなども使い、楽しく体を動かしています。

また、新型コロナウイルスの流行により休止していた入浴サービスも再開しました。今後、買い物外出や散歩も再開を予定しています。

そしてショートステイの利用も感染対策が緩和され利用しやすくなっています。少しずつではありますが、コロナ禍前の日常を取り戻しています。必要な変化をさせながら、これからも利用者さんのニーズを取り入れ、より良い支援に繋げていきたいと思えます。

一宮中学校での職業体験交流会に参加して

「発見たんけん千葉県より10年先のジョブノート」に掲載されている企業の一つとして、中学校で開催される職業体験交流会に参加しました。



内容は中学校内で事前学習し、福祉事業に興味・関心のある生徒さんのグループに車椅子体験等のワークショップを実施しました。

2交代制で1回7〜8人が参加しています。始めにセルプ・ガーデンハウスの紹介をし、それから利用者さんへ行うお仕事を、分かるように説明しました。車椅子体験では、1人ずつ車椅子に乗り自走してもらい平らな場所・坂道スロープの上り下りを体験してもらいました。

段差がある場所では、1人では登れない為、他の生徒が後ろから介助をする体験をしました。

中学2年生という多感な時期に、福祉業を選んだ生徒さんは両親が同じ仕事をしている、福祉大学の受験を考えている等、将来を見据えての学習体験でした。

ワークショップ体験では、普段は車椅子に乗り慣れておらず不便さを感じた事で障害がある人への理解と、相手の立場を考える事の理解が少しでも深まってくれたのではないかと思います。若い世代から障害があってもそれが普通である感覚が広まる時代になる事を願い、今後もこの活動の継続を熱望したいと感じました。

未来の福祉・介護業界の為に、体験交流会を通して、多くの生徒さんに興味を持って頂けたのではないでしょう。

勤続表彰の皆さん

20年勤続を迎えて

渡辺 庸



まず20年間で大きな病気もなく仕事を続けられたことに感謝しています。そして利用者さんや職員さんをはじめ皆様とお互いにささえあいながら共に同じ時間を共有することができたことにも感謝いたします。

「継続は力なり」という言葉があるように、20年続けてきたことで仕事の量や幅が増え、色々な経験や勉強をさせていただきました。今まで教わってきた経験を自分自身の財産にして、またこの経験をこれから少しでも社会に還元していきたいと思えます。1度しかない人生なので、これからも自分自身も他者も大切にして、前向きに取り組んでいきたいと思えます。最後に土気地区が福祉に関心のある街になるように、微力ですが今自分が出れることを一歩ずつ進めていきたいと思えます。

勤続15年を迎えて

奥田 稔之



気づけば15年という長い時を、セルプ・ガーデンハウスで過ごしていました。正直驚きであります。右も左も分かっていなかった私を多くの利用者さんや仲間が引っ張って道を示してくれたと思います。高校3年生の時に漠然と福祉をやりたいと思いき、障害者福祉を選択した自分は間違っていないかと思えます。これからは多くの壁にぶつかるとは思いますが、日々は勉強と思いき福祉に邁進していきたいと思えます。これからもよろしくお願ひします。

セルプ・ガーデンハウス 課長・副施設長・副主任に着任

海谷主任が課長に、佐藤主任が副施設長に、中道生
活支援員が副主任に本年4月1日に就任しました。



海谷紀子 課長

利用者さん、職員さんに支
えてもらいながら、18年問何
とか働くことが出来ました。
ほぼ同い年の利用者たちと共
に年を重ね、体の話や家族の
ことを聞くと、自分もそうだなと感じます。これか
らもういろんなことが自分達の人生に起こるはずだ
が、ケセラセラで過ごせたらいいなと思います。



佐藤幹枝 副施設長

この大任を受け思ったこと
は、決して背のびをせず自分ら
しく進んでいきたいというこ
と。そして「何のため」を自身
に問いかけ利用者さん一人一人
と向き合い共に成長し感謝する心を忘れない。そんな
日々の積み重ねがきつと生きる力になると信じて今日
も頑張ります。



中道亨美 副主任

誰かと笑い合い、美味しい食
事を食べて安心して眠ることが
出来る場所があるのは当たり前
ではないと感じます。平穏な日
常に感謝し、利用者さんの気持
ち、ご家族の想いを大切に、みなさんが幸せに暮らせ
るよう副主任としてお手伝いできればと思います。

令和6年度新体制事業計画・予算／令和5年度事業報告・決算が承認

令和6年度事業計画、同予算は3
月26日に、令和5年度事業報告、同
決算は5月31日・6月17日に開催さ
れた理事会と評議員会にて承認され
ました。

法人・障害者支援施設・障害福祉
サービス事業所・特定相談支援事業・
短期入所・日中一時支援事業の6事
業についての計画と予算です。

令和6年度法人事業計画は、『地域
移行に向けた取組の整備と新しい入
所施設の在り方』『利用者・家族の
状況に応じたサービスの提供』『地
域に必要とされる社会福祉法人への
取り組み』などを挙げています。

主な内容としては、『地域移行に
向けた取組の整備と新しい入所施
設の在り方』では、利用者さんが生
活する上で、食事や入浴、日課の
内容や参加について利用者個人が
選択できる機会が少ない入所施設
の在り方を見直し、国連の障害者
権利条約の主旨(生活を選択できる
権利)に沿うよう「個人が選択でき
る場面」を増やしていきたい、「選択で
きる権利」を尊重できるように取り組
みます。

障害者支援施設(定員..33名)では、
生活介護事業は趣味的活動、生産活
動、レクリエーション、クラブ活動等
また入浴や食事介助等、生活に関わ
る介助を中心とした施設入所支援事
業を行います。

障害福祉サービス事業所(定員..
20名)は、生活介護事業を行い、趣
味的活動、生産活動を中心にレクリ

勤続10年にあたり

須郷景子



ある日の連絡事項に勤続者
表彰が20年、15年、10年と年
数別に何名と記載があり、「表
彰される人は、節目の年なん
だなく」と他人事として捉え

ていました。表彰日が近くなり今年10年目に当たる
と知り、「えっ、私？」と驚いた印象が今も残ってい
ます。気が付いたら10年という歳月が過ぎ、自分も
利用者さんも年を重ねてきたのだなと想います。以
前は利用者さんの自立度が高く、遠方への外出もお
互いに楽しみでしたがこの10年間の間には身体機能
面に大きな変化があり特に排泄が心配という利用者
さんが増え、人によっては遠方の外出を遠慮するよ
うになったり、コロナ禍の生活環境も行動力の妨げ
になったのではないかと振り返ります。しかし、遠
方でもなくとも近所のショッピングモールへ出かけ衣
類や嗜好品等、利用者さんが日々使う物を、自己決
定し購入すると殆どの人が「楽しかったね。また行
きたいね」と笑顔で感想をもらい、こちらも嬉しく
感じます。今後5年10年と、一緒にちよつとした時
間を共有し、利用者さんの笑顔が続くように支援を
させてもらえればと考えています。

エーションなども取り入れ
て生きがい作りの場として
の活動を行っていきます。
特定相談支援事業は、
地域に住んでいる障害者を
もった方の相談を受けな
がら、サービス利用計画
を作成するとともに福祉
サービスの提供などにつ
ながっていきます。その他
ショートステイ、公益事
業の日中一時支援事業計
画も策定されています。
予算については、当法人
の経理規程に基づき、令和
5年度比1,160万円増
の2億6,473万円で予
算を組みました。

社会福祉法人くちなし 第24期決算報告

令和5年度(第24期)決算は、令和6年5月31日の理事会、6月17日の評議員会において承認されましたのでご報告します。

千葉県緑区大木戸町1423-3 社会福祉法人くちなし 理事長 小林正継

貸借対照表(令和6年3月31日現在) (単位:千円)				資金収支計算書(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで) (単位:千円)			
資産の部		負債の部		勘定科目		収入・支出計	収支差額
流動資産	123,387	流動負債(事業未払金ほか)	21,510	事業活動による収支	収入	259,600	264,215
現金・預金	36,354				障害福祉サービス等事業収入	259,600	
未収金ほか	87,033				経常経費寄附金収入	2219	
					受取利息配当金収入	1	
					その他の収入	2395	
固定資産	811,746	固定負債(設備資金借入金ほか)	18,534		支出	164,723	259,599
基本財産(建物等)	545,890				人件費支出	164,723	
その他の固定資産	265,856				事業費支出	35,430	
					事務費支出	58,486	
					その他の支出	960	
		純資産	895,089	施設整備等による収支	収入	45,375	0
		基本金	107,973			-	
		国庫補助金等特別積立金	414,124		支出	62,947	63,727
		その他の積立資産	166,280		固定資産取得支出	62,947	
		次期繰越活動増減差額	206,712		ファイナンス・リース債務の返済支出	780	
				その他の活動による収支	収入	33,618	33,618
					積立資産取崩収入	33,618	
					支出	8,793	8,793
					積立資産支出	8,793	
					その他の活動による支出	-	
資産の部合計	935,133	負債の部合計	935,133	当期資金収支差額合計			11,089

▼コラム

『栄養から』

夏本番を迎え、皆様いかがお過ごしでしょうか?さて、8/4は日本栄養士会が8と4の語呂から「栄養の日」とし8/1〜8/7を「栄養週間」と制定しました。「栄養」とは、食事を摂取して、その成分を消化・吸収し代謝することで、生命を維持し成長・発達していく命の営みそのものです。管理栄養士・栄養士はその「栄養」の力で人々を健康に幸せにする専門職です。

2024年は「口と栄養の“おいしい”関係」がテーマとなっています。どのライフステージにおいても「口」に関する栄養課題は多く「口と栄養」の関係が注目されています。人は「口」から「食べ物」を食べることで、味覚や視



覚・嗅覚・感覚と色々な機能を通じて「おいしい」と感じます。おいしいと感じるから「食欲」に繋がります。栄養が維持できるのではないかと思います。人が食べ物を口からとることはとても大切なことです。食べることは生きることに繋がります。施設でも利用者さんが「おいしい」と感じ、栄養を「口」から摂り続けられるようにサポートしていきたいです。

新職員紹介

【生活支援員】



関口 香織

- 好きな言葉
七転八起
- 抱負
いつも笑顔で明るく利用者さん、職員さんと接していきたいです。



生活介護(通所)の利用者さん募集!

☆ 仲間と一緒に活動しませんか? ☆

★ ぜひ一度見学に来てください! ★